提言
＜要旨＞

人と地域を幸せにする「ハピネス・マッチング」

－「福」を呼び込む「複」線的な生き方の実現に向けて－

グローバル適塾第19期
行財政改革グループ

提言の背景

日本は経済的に豊かになったが、国民は、少子化・高齢化、激甚災害、新型コロナウイルスの猛威、VUCAの時代の働き方、など**生活様式の多様化**が進み、同時に**将来の不安**が増している。変化が激しい時代に、人生において大きなウェイトを占める「住む」「働く」に関して、多様な選択肢としての「複住」「複業」が「幸せな生き方」の可能性を高めるととらえた。

日本人の幸福感における課題

幸福のパラドックス　：　日本は名目GDP世界３位だが世界幸福度ランキング62位
経済水準は高いが幸福度は低い　→　所得と幸せは正比例しない！

住居・生活の不満・不安
- ✓2割が不満：子育て、騒音・大気汚染、人口密度
- ✓感染症の蔓延、罹患リスク
- ✓激甚化する自然災害

就業に関する不満・不安
- ✓新卒一括採用：卒業時に就職できなければ就職浪人？
- ✓転職率の低さ　：終身雇用の名残？　1社あたりの勤続年数が長い
- ✓有給休暇取得率の低さ：罪悪感や同調圧力があるのでは？

人々の価値観が多様化する中、選択肢の少なさ と 同調圧力などによって「住」や「働」の自由度が少なく、幸福感が低い

自治体のとるべき方向性

移住と関係人口：空き家対策と移住・交流施策の課題、「関係人口」の必要性
就業から複業へ：複業マッチング、副業の広がりと潜在ニーズ

＜複住と複業で地域の人と多様に関わる人々の増加を目指す＞

とるべき方向性：
- ✓多様化する市民ニーズ、複雑化する社会問題、新型コロナの価値変容に対応
- ✓行政がハブ役かつ旗振り役、柔軟に新たなアイデアを活用すべく民間と連携
- ✓人が幸せになるための斬新かつ多様な選択肢を提供する仕組みづくり

提言内容　行政は市民の幸せを実現する“マッチメーカー”　市民の高度で多様化する欲求を満たす基盤をつくれ！

市民の望む多様な幸せの中で大きなウェイトを占める**「住む」「働く」**に関して、行政が「多様な選択肢」を示し、マッチングさせる

1．地域をまたぎ多様な手段で人々がつながり合う社会の実現を

⇒市民の心理的なハードルを下げ、気軽にチャレンジができる環境づくり

おためし複住	おためし複業人材オファー
期間限定の複住体験パッケージ提供 -宿泊＋地元イベントへの参加機会-	自治体が集めた地元企業の複業人材ニーズを所属企業を経由してオファー
移住・複住のミスマッチを軽減 第二の故郷として関係人口を創出	複業に対する企業・従業員の不安を解消 複業人材のスキルノウハウを地域で活用

2．一人ひとりの主体的な選択を支える新たな社会の仕組みを

⇒複住や複業を阻む制約や不安を解消し、関係人口を創出

バーチャル自治体

国家戦略特区の枠組みを活用しながら複数の自治体がバーチャルに連携
バーチャル住民はサービス・機会の提供を受けながら地域をまたぐ暮らし方・働き方を実現

市民＞ 市民の価値観に呼応した暮らし方、働き方ができる
行政＞ 自治体間の相互補完により地理的・文化的な強みが発揮できる
企業＞ 雇用機会の増加、多様な人材の獲得、社内の活性化、社員のスキルアップ

提言によって得られる未来

市民が複線的でフレキシブルな生き方を選択でき幸福感がアップ！
「複住」「複業」で人のつながりによる幸福感がアップ！
「希望あるマッチング」で関係人口が増加し、地域経済が活性化！